

旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部
会員向けニューズレター
発行人 古川 彰久
事務局 〒105-0011 東京都港区
芝公園2-6-11 芝公園7ビル1001
(有)イキキライフ内
Tel.03-3432-0584
Fax.03-3432-0582
http://www.jouhan.com
E-mail: info@iki2life.com

2月例会ご案内

日時 : 2月12日 水曜日
18:30 ~ 20:30

テーマ : 「情勢判断学会とは
~その原点と歴史を振り返ろう」

場所 : 港区立商工会館

参加費 : 1000円

担当 : 古川 彰久

情勢判断学会とは何をする会なのか?

どのように生まれ、どのように進展してきたのか?
その原点に立ち返り、現在の状態に至った経緯を振り返ってみましょう。

1. 創始者、城野宏先生と情勢判断学について

城野宏先生の略年表は情勢判断学会のホームページ
<http://www.jouhan.com> にも掲載されていますが、

昭和20年に大戦が終結したが、その後も中国山西省に残り、毛沢東が率いる中国人民解放軍と戦い、昭和24年に負けて捕えられ禁固18年の判決を受け、昭和39年に帰国するという非常に特異な体験をされています。

この間の状況については、城野宏著
「祖国復興に戦った男たち」、「獄中の人間学」

2. 城野経済研究所の設立と脳力開発研修、情勢判断学会の発足

帰国後、周囲の懸念を振り払い積極的な活動により自らの生活基盤を築き、昭和44年には城野経済研究所を発足、月刊シリーズで城野氏論文やコンサルタント実績を著わしたパンフレットを発行し、会員制に移行していった。その後、城野氏の指導の下、平野耕一郎が脳力開発の指針を明確にし、脳力開発研修を実践することになった。

会員制が軌道に乗り、昭和52年8月に情勢判断学会を発足した。

3. 情勢判断学会の活動推移

~会報から読み解く活動情報

情勢判断学会の活動内容としては、月例会を中心に、各種の勉強会が分科会として開催されてきた。

昭和57年7月には情判会報の創刊号が当時の代表桜井雅章氏により発刊された。

昭和57年9月に発刊された第2号には、7月に開催された脳力開発全国大会の報告が掲載されている。

昭和58年12月に第3号が発刊されたが、小生が東京本部の執行委員長として登場することになった。これまでは、城野経済研究所の経済的保護のもと活動をしてきたが参加者の減少に悩まされていた。小生としては、情勢判断学会東京本部として自己責任で自立していくべきだと主張し城野先生のご理解を得た。城野先生も1号会員として参加いただくこととなった。また、これまでの代表制を改めて執行委員体制をとることとした。

昭和60年11月の執行委員会で、小生の仕事上の異動で昭和61年以降の執行委員長を東瀧邦次氏にお願いすることとした。

昭和60年12月21日、残念ながら城野先生が入院先の東大病院でご逝去された。城野夫人が事後処理を進められるが城野経済研究所は解散されることとなった。

情勢判断学会の方は昭和60年から村尾朝治氏、平成2年から荻原なみさん、平成3年から井野紀久男氏、平成7年から安藤明氏と変遷し、平成15年には小生が引き受けることとなり、現在に至っている。

その間残念ながら拡大発展が果たせていないのが現状であります。

12月例会報告

日時 : 12月11日 水曜日
18:30 ~ 21:00
テーマ : 「顔面表情読解を通じた円滑な
コミュニケーションのあり方第2回
—微表情と嘘」
場所 : 港区立商工会館
担当 : 清水 建二

12月開催の情勢判断学会では、本年9月開催の微表情セミナーに引き続き、多くの方に参加して頂きました。皆様の洞察力優れたご意見・ご質問のお陰で、大変盛り上がった会となりましたこと、ここに感謝申し上げます。それではこれより平成25年12月11日に開催されました情勢判断学会の報告をさせていただきます。

12月に開催されました表情読解セミナーの概要は表1の通りです。

1 「嘘という現象—嘘とは何か?」では、人を傷つける嘘や自己の利益追求を目的とした嘘だけではなく、日常的につく嘘や他者を思いやる嘘を取り上げることで、嘘現象の複雑さを考えました。

2 「嘘を見抜くことの効用」では、犯罪に関わる嘘・日常的な嘘を問わず、嘘をつく人の身になって考えることで、他者理解—人間の利己心・思いやりの心・気遣い—を促進するきっかけになることを考えました。

3 「嘘発見の歴史—古代の嘘探知法・言語分析・非言語分析・ポリグラフ検査法・脳波測定法」では、嘘を探知するために人間の英知がいかに注がれてきたかを時系列、分野別に紹介させていただきました。

4 「嘘探知の精度—どのくらい正確に嘘を見抜けるのか?」では、嘘探知率の現状、精度を分野別に比較しました。

5 「非言語分析と嘘」では、世間で見聞きする嘘探知法が本当か否かを検証し、嘘を探知するのに有用な非言語上の手掛かりを最新科学の知見を基に解説させていただきました。

6 「微表情と嘘」では、話者の言動、つまりセリフと微表情の不一致度合いを探知することによって嘘探知の精度を向上させる可能性を探りました。

7 「質疑応答」では、ベルギーに本社を置く the Center for Body Language (<http://www.centerforbodylanguage.com/>) の創設者でありボディランゲージの専門家でもある Patryk & Kasia Wezowski 夫妻に Skype を通じて登場して頂き、顔の表情及び嘘探知法について質疑応答をして頂きました。最後に、私と参加者の皆様との間でも質疑応答をさせていただきました。

「嘘発見の方法」と聞くと何か、他人の心を覗く、他人の心を操る、といった否定的なイメージが感じられると思います。本セミナーではそういった否定的な側面から嘘を捉えるのではなく、嘘を理解し、嘘現象の多様性を捉えることで、他者をより理解し、より良いコミュニケーションに活かすことの出来る方法を考えることに傾注しました。結論といたしましては、①「嘘を見抜く絶対的な方法は、最先端科学の知見を利用してもない」ということ、②「様々な嘘の中でも感情に関わる嘘は見抜きやすい」ということ、③「嘘発見のカギは、表情と言葉のタイミング、ズレを感知する」ということ、④「相手の立場に身を置くことで、嘘をつかなければならない相手の思い、人間の心というものの一端を理解出来る」ということです。

参加者の皆様のご協力のもと、穏やかな雰囲気の中でセミナーを進行させて頂くことが出来ました。素晴らしい会に招いて頂きありがとうございました。またの機会を楽しみにしております。

表1 表情読解セミナー概要

タイトル	概要
1 嘘という現象—嘘とは何か?	刑事罰に関連する嘘から日常的な嘘等、様々な嘘から嘘という現象を考える。
2 嘘を見抜くことの効用	事件や事故そして出来事の真相解明という直接的な効用から他者理解を促進させる効用を考察。
3 嘘発見の歴史—古代の嘘探知法・言語分析・非言語分析・ポリグラフ検査法・脳波測定法	今日まで人類がどのように嘘を発見する方法に精力を注いできたか、古代の嘘探知法から21世紀の最新科学の知見に基づく嘘探知法を紹介。
4 嘘探知の精度—どのくらい正確に嘘を見抜けるのか?	現代の嘘発見法の嘘探知率はどの程度なのか、それぞれの探知法の精度を比較。
5 非言語分析と嘘	嘘とそれを示す手掛かりとの関係を解説。
6 微表情と嘘	微表情を利用した嘘探知の方法を解説。
7 質疑応答	顔面表情及び嘘探知法に関する質疑応答。

参考

4 「嘘探知の精度—どのくらい正確に嘘を見抜けるのか？」

	精度 (単位：%)	
	真実	嘘
言語分析	72	66
非言語分析： 一般※1	63	48
非言語分析： プロ※2	56	56
ポリグラフ検査	83-99	76-88
脳波測定	88	82

参照：Aldert Vrij. (2008). *Detecting Lies and Deceit Pitfalls and Opportunities*. Second Edition. John Wiley & Sons, Ltd., p.391 を基に作成

※1 「一般」とは、普段、嘘を見抜くことを仕事の一部にしていない人々のことを示している。

※2 「プロ」とは、普段、嘘を見抜くことを仕事の一部としている人々のことを示している。例えば、警察官、検察官、弁護士、FBI 捜査官、CIA、シークレットサービス等の職業が含まれている。

※3 データは全て実験室研究によるもの

6 「微表情と嘘」

問：以下の人物の感情状態を推定して下さい。



「そのご提案は素晴らしいですね。」
(感情が先に生じ、続いてセリフが述べられた状況)

解説

通常、言葉は感情の後に述べられます。従って言葉が述べられる前に現れるほんの一瞬の表情—微表情—を感知することによって、その人の真の感情状態を知ることが出来ます。

本ケースでは、「そのご提案は素晴らしいですね。」というセリフの前に「軽蔑 (正確には笑顔で偽装された軽蔑)」の表情が確認できます。「軽蔑」とは相手を見下す感情ですので、言葉では、「素晴らしい」と言いつつも、本心では自分の考え、提案の方が優れており、相手の提案を見下している、もしくはその片方の感情状態であることが推定されます。結論的には、相手がこちらの提案を受け入れる可能性は低いと判断出来ます。

ちなみに私もビジネスミーティングで多々このケース、この「表情+セリフ」に出会います。私の体験の範囲で限定的に申し上げるならば、この表情を観察した時に、私の提案が通ったことはこれまで一度もありません (笑)。

講師紹介

清水建二 – 微表情トレーナー、認定 FACS コーダー

the Center for Body Language で認定された日本人初の微表情トレーナー。1982年、東京生まれ。早稲田大学政治経済学部を卒業後、東京大学大学院でメディア及びコミュニケーション論について学ぶ。学際情報学修士。大学院での学問を基に表情研究をはじめ、米国の研究機関より FACS (顔面動作符号化システム) コーダーの認定を受ける。微表情に関する各種認定証を保持している。

METV のトレーニングページ及びトレーニングマニュアル、書籍に関する日本語訳を担当している。微表情を用いた効果的なコミュニケーション方法を広く日本に広めるために日夜、研究、セミナー等の活動に従事している。

清水建二の紹介及び問い合わせ先に関するページ
<http://www.microexpressionstrainingvideos.com/kenji-shimizu/>

注：本記事及び写真をいかなる媒体にも無断で掲載することを禁止します。

